授与機関名　順天堂大学

学位記番号　甲第 1907 号

Risk Factors for Occupational Accidents in Agricultural Enterprises in Japan: an Employee Questionnaire Survey

（日本の農業経営体における労働災害のリスク因子に関する研究）

市原　剛央（いちはら　ごお）

博士（医学）

論文内容の要旨

近年、日本の農業の産業構造が大きく変化している。自営農家の高齢化や後継者不足をうけ、家族経営以外の事業者の参入が増加している。その結果、企業経営体で働く農作業従事者が増加傾向にある。このような農作業従事者は“労働者”としての側面をもつため、事業者は労働安全衛生法に基づき職場における労働者の安全と健康を確保することが必要となる。農業についてはこれまで自営業が主流を占めており、労働安全衛生法の対象外とされてきたため、農業労働者の労働安全衛生について全国的な調査は十分とはいえなかった。本研究では、我が国の農業労働者に対し実態を踏まえた安全衛生対策を行うため、農業法人とそこで働く労働者を対象に質問紙調査を行ない、労働災害のリスク因子を明らかにすることを目的とした。

今回は、全国の 101 の農業法人に勤務する 1606 名の労働者に質問紙調査を行った。質問紙の内容は、厚生労働省による「平成 24 年労働安全衛生法特別調査」をもとに、労働災害の経験の有無、個人属性、労働条件、労働安全衛生体制に関する情報などを収集した。有効回答は 337 名（21.0%）であった。このうち 104 名（30.9%）が労働災害の経験があると回答した。労働災害の経験の有無を目的変数として、労働条件、個人の属性、および労働安全衛生体制との関係について多重ロジスティック解析を行ったところ、正規雇用労働者であること（OR 3.67, 95%CI 1.84-7.33)、農薬を使用していること（OR 2.61, 95%CI 1.52-4.47)、および長時間労働（OR 1.76, 95%CI 1.15-2.68）が労働災害のリスクを増加させていた。

本研究では、日本の農業労働者の労働災害のリスク因子を明らかにし、長時間労働の削減や、正規雇用労働者の労働負担の軽減が農業労働災害のリスクを低減することが示唆された。